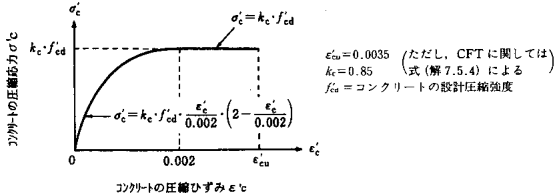
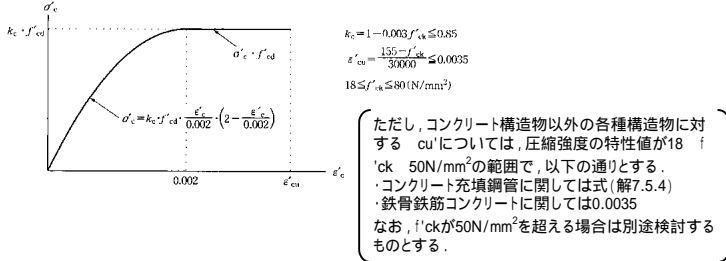


「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造)」改訂に伴う関連技術基準の対照表

鉄道構造物等設計標準・同解説(耐震設計)

平成17年3月10日現在

頁	条文・解説番号	条文・解説	改訂に伴う読替え
p.3	1.1 【解説】	「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造)」:平成4年10月	「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造)」:平成16年4月
p.44	4.2 【解説】 (1), (2) について	 <p>図4.2.1 コンクリートのモデル化された応力 - ひずみ曲線</p>	 <p>図4.2.1 コンクリートのモデル化された応力 - ひずみ曲線</p>
p.45	4.2 【解説】 (1), (2) について	鉄筋の応力 - ひずみ曲線は、一般に解説図4.2.2(a)に示すモデル化された応力 - ひずみ曲線を用いてよい。	鉄筋の応力 - ひずみ曲線は、一般に解説図4.2.2(a)に示すモデル化された応力 - ひずみ曲線を用いてよい。 <u>ただし、SD785相当、SD1275相当の鉄筋に関しては、明確な降伏棚がない場合があるので、別途適切に応力 - ひずみ曲線をモデル化する必要がある。</u>

頁	条文・解説番号	条文・解説	改訂に伴う読替え
p.142	7.3	<p>(b) 次の条件を満足する部材は、せん断破壊モードと判定するものとする。</p> $V_{mu} / V_{yd} > 1.0$ <p>ここに、V_{mu}: 部材が曲げ耐力に達するときのせん断力。 ただし、曲げ耐力は、鋼材の実引張降伏強度を用いるとともに、断面内の全ての軸方向鉄筋を考慮して算定するものとする。</p> <p>V_{yd}: 設計せん断耐力 $V_{cd} + V_{wd}$ V_{cd}: せん断補強鋼材を用いない棒部材の設計せん断耐力。 ただし、V_{cd}の算定に用いる部材係数 b は1.3を標準とする。 V_{wd}: せん断補強鉄筋により受け持たれる棒部材の設計せん断耐力。 ただし、V_{wd}の算定に用いる部材係数 b は1.15を標準とする。</p>	<p>(b) 次の条件を満足する部材は、せん断破壊モードと判定するものとする。</p> $V_{mu} / V_{ud} > 1.0$ <p>ここに、V_{mu}: 部材が曲げ耐力に達するときのせん断力。 ただし、曲げ耐力は、鋼材の実引張降伏強度を用いるとともに、断面内の全ての軸方向鉄筋を考慮して算定するものとする。</p> <p>V_{ud}: 設計せん断耐力</p>
p.143	7.3 【解説】(1)	<p>鉄筋コンクリート棒部材の破壊形態の判定は、部材が有するせん断耐力と、曲げ耐力に達するときに部材に発生する最大せん断力とを比較することによって行うこととした。この場合、……必要である。なお、……乗じた値としてよい。</p>	<p>鉄筋コンクリート棒部材の破壊形態の判定は、部材が有するせん断耐力と、曲げ耐力に達するときに部材に発生する最大せん断力とを比較することによって行うこととした。この場合、……必要である。なお、……乗じた値としてよい。また、ここでいう設計せん断耐力 V_{ud} は、「鉄道構造物等設計標準(コンクリート構造物)」の「7.2.3.2 棒部材の設計せん断耐力」で算出される設計せん断耐力のうち、最も小さい値としてよい。</p>
p.143	7.3 【解説】(2)	<p>ここで、釣合い軸力は引張鉄筋が降伏すると同時にコンクリートの圧縮ひずみが $c' = 0.0035$ に達する時の軸力とする。</p>	<p>ここで、釣合い軸力は引張鉄筋が降伏すると同時にコンクリートの圧縮ひずみが「鉄道構造物等設計標準(コンクリート構造物)」の「5.3.1.4 コンクリートの応力～ひずみ曲線」に示す終局ひずみに達するときの軸力とする。</p>

頁	条文・解説番号	条文・解説	改訂に伴う読替え																						
p.144	7.3 【解説】(2) (a)()	<p>曲げモーメント M_c</p> <p>曲げひび割れ発生時の曲げモーメントで、コンクリートの縁引張応力度が「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造物)」に示す部材寸法の影響を考慮した設計曲げ強度に達するときの曲げモーメントとする。</p>	<p>ア)曲げモーメント M_{cr}</p> <p>曲げひび割れ発生時の曲げモーメントで、コンクリートの縁引張応力度が「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造物)」に示すコンクリートの曲げひび割れ強度に達するときの曲げモーメントとする。</p>																						
p.145	7.3 【解説】(2) (a)()	<p>曲げモーメント M_m</p> <p>コンクリートの圧縮ひずみが $c' = 0.0035$に達する時の曲げモーメントとする。</p>	<p>ア)曲げモーメント M_m</p> <p>コンクリートの圧縮ひずみが「鉄道構造物等設計標準(コンクリート構造物)」の「5.3.1.4 コンクリートの応力～ひずみ曲線」に示す終局ひずみに達するときの曲げモーメントとする。</p>																						
p.146	7.3 【解説】(2) (a)()	<p>解説表7.3.1 帯鉄筋強度を考慮する係数k_{w0}</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>k_{w0}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD 295</td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td>SD 345</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>SD 390</td> <td>1.15</td> </tr> </tbody> </table>	種類	k_{w0}	SD 295	0.85	SD 345	1.0	SD 390	1.15	<p>解説表7.3.1 帯鉄筋強度を考慮する係数k_{w0}</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>k_{w0}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD 295</td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td>SD 345</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>SD 390</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td>SD 490</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>SD 685 相当</td> <td>1.95</td> </tr> <tr> <td>SD 785 相当</td> <td>2.30</td> </tr> </tbody> </table>	種類	k_{w0}	SD 295	0.85	SD 345	1.0	SD 390	1.15	SD 490	1.40	SD 685 相当	1.95	SD 785 相当	2.30
種類	k_{w0}																								
SD 295	0.85																								
SD 345	1.0																								
SD 390	1.15																								
種類	k_{w0}																								
SD 295	0.85																								
SD 345	1.0																								
SD 390	1.15																								
SD 490	1.40																								
SD 685 相当	1.95																								
SD 785 相当	2.30																								
p.148	7.3 【解説】(2) (b)()	<p>曲げモーメント M_c</p> <p>曲げひび割れ発生時の曲げモーメントで、コンクリートの縁引張応力度が部材寸法の影響を考慮した設計曲げ強度に達するときの曲げモーメントとする。</p>	<p>ア)曲げモーメント M_{cr}</p> <p>曲げひび割れ発生時の曲げモーメントで、コンクリートの縁引張応力度が「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造物)」に示すコンクリートの曲げひび割れ強度に達するときの曲げモーメントとする。</p>																						
p.148	7.3 【解説】(2) (b)()	<p>曲げモーメント M_m</p> <p>コンクリートの圧縮ひずみが $c' = 0.0035$に達する時の曲げモーメントとする。</p>	<p>ア)曲げモーメント M_m</p> <p>コンクリートの圧縮ひずみが「鉄道構造物等設計標準(コンクリート構造物)」の「5.3.1.4 コンクリートの応力～ひずみ曲線」に示す終局ひずみに達するときの曲げモーメントとする。</p>																						

頁	条文・解説番号	条文・解説	改訂に伴う読替え
p.214	8.5.1 【解説】	ただし、「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造物)」, 「鉄道構造物等設計標準・同解説(鋼とコンクリートの複合構造 物)」に記載されている耐震構造細目に関しては,本設計標準の耐 震構造細目を満足すれば,これに従わなくてよい.	ただし、「鉄道構造物等設計標準・同解説(鋼とコンクリートの複合 構造物)」に記載されている耐震構造細目に関しては,本設計標準 の耐震構造細目を満足すれば,これに従わなくてよい.
p.234	10.5.1 【解説】	ただし、「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造物)」, 「鉄道構造物等設計標準・同解説(鋼とコンクリートの複合構造 物)」に記載されている耐震構造細目に関しては,本設計標準の耐 震構造細目を満足すれば,これに従わなくてよい.	ただし、「鉄道構造物等設計標準・同解説(鋼とコンクリートの複合 構造物)」に記載されている耐震構造細目に関しては,本設計標準 の耐震構造細目を満足すれば,これに従わなくてよい.
p.271	12.4.2 【解説】2))側壁鉛直断面 なお,大型中空部材に関しては十分な実験結果等が得られていな いため,「コンクリート標準」に示すコンクリートの縁圧縮ひずみが $c' = 0.0035$ に達した時点の設計曲げ終局耐力(M_u)およびその時 点の曲率(ϕ_u)を損傷レベル2および3の限界点とする.)側壁鉛直断面 なお,大型中空部材に関しては十分な実験結果等が得られていな いため,コンクリートの圧縮ひずみが「鉄道構造物等設計標準(コン クリート構造物)」の「5.3.1.4 コンクリートの応力~ひずみ曲線」に 示す終局ひずみに達した時点の設計曲げ耐力(M_u)およびその時 点の曲率(ϕ_u)を損傷レベル2および3の制限値とする.
p.308	12.7.2 【解説】2))井筒鉛直断面 すなわち,「鉄道構造物等設計標準・同解説(コンクリート構造物)」 に示すコンクリートの縁圧縮ひずみ c' が $c' = 0.0035$ に達した時 点の設計曲げ耐力 M_u およびその際の曲率 ϕ_u を損傷レベル2およ び3の制限値とする.)井筒鉛直断面 すなわち,コンクリートの圧縮ひずみが「鉄道構造物等設計標準 (コンクリート構造物)」の「5.3.1.4 コンクリートの応力~ひずみ曲 線」に示す終局ひずみに達した時点の設計曲げ耐力(M_u)および その際の曲率 ϕ_u を損傷レベル2および3の制限値とする.